

# 血液検査項目のやさしい解説

蛋白	大事な栄養素の一つです。栄養状態がわかります。
アルブミン A/G比	タンパク質の一番大事な要素です。栄養・体調を維持します。あらゆる病気で低下する傾向がありますが、病勢や全身状態を推定するのに役立ちます。
総ビリルビン 直接ビリルビン	主に肝臓・胆嚢が悪いと上昇してきますが、溶血性貧血などでも高くなります。2以上になると、体が黄色くなります。
ZTT・TTT	肝臓のダメージの程度や、高脂血症・膠原病及び感染症などで高くなります。
AST (GOT) ALT (GPT) LDH	この3つの酵素は、肝臓・心臓・筋肉・血液などが壊れると増加します。  全身的な細胞損傷の有無を知るためのものです。
ALP	肝臓由来の場合では、肝臓や胆嚢から小腸にいく管がつまると増加してきます。成長期には骨由来のものが、妊娠時には胎盤由来のものが増加したりするので、詳しい検査が必要になります。
コリンエステラーゼ	肝障害・農薬中毒などで低下します。脂肪肝で上がる場合があります。
γ-GTP	アルコール性の肝障害等で高くなるため、酒飲みの肝機能検査といわれています。
CPK (CK)	骨格筋・脳・心筋に多く含まれ、心筋梗塞・脳梗塞・筋障害などで高値になります。
アミラーゼ	膵臓の病気を調べる時の代表的な検査ですが、唾液腺からも分泌されるため、どちらのものか鑑別が必要になります。
総コレステロール 中性脂肪	高血圧や動脈硬化の兆候や進み具合等をみる検査です。 中性脂肪が高いと脂肪肝の可能性があります。食後には増加します。
HDL-コレステロール	善玉コレステロールと呼ばれ、血管をきれいにします。動脈硬化の予防には必要です。
尿酸	増加すると痛風・腎結石ができやすくなります。ビールの飲み過ぎには注意です。
尿素窒素 クレアチニン	腎臓の働きがわかります。腎臓が正常に働いていれば、尿中に出ていきますが悪ければ、血液中に増えてきます。クレアチニン値、2以上は注意が必要です。
Na (ナトリウム) K (カリウム) Cl (クロール)	血液中の電解質です。水分代謝・浸透圧などを調節して、体細胞を維持しています。浮腫や脱水症状、腎障害などがあると、異常値になります。
Ca (カルシウム)	骨の形成に関与しています。その他、多くの生理機能を調節しています。
IP (無機リン)	全ての細胞の代謝にかかせない無機物です。
Fe (鉄)	赤血球中のヘモグロビンに必要な成分で不足すると貧血をおこします。
血糖	血液中にあるブドウ糖のことで、体のエネルギーとして重要です。しかし、増え過ぎると(糖尿病)、血管が痛んだり、他の病気にかかりやすくなります。
RA	リウマチの原因物質があるかどうかをみます。
HbA1c (ヘモグロビンA1c)	糖尿病のマーカーとして過去3ヶ月の血糖値を推測できるので高値でしたら、基準値の範囲に入るように心がけましょう。

※これらの項目のうち、一過性に単独上昇する場合があります、  
医師が、症状や他の検査結果などを総合的にみて診断し、説明いたします。